

県連情報

群馬県生活協同組合連合会

前橋市大手町 3-19-3

TEL 027 - 234 - 2376

11・12 月合併号 (No 6 5)

2009 年 12 月 11 日発行

「県連情報」はホームページでもご覧いただけます

<http://gunma.kenren-coop.jp/>

Eメール: mail@gunma.kenren-coop.jp

第41回群馬県生協大会を開催

10月29日(木)

第二部で日野秀逸先生（日生協医療部会副運営委員長）の講演を聞く

第 41 回群馬県生協大会が 10 月 29 日（木）、前橋テルサで開催され、会員生協の組合員・役職員など 271 名が参加しました。

第一部の式典では、青木真理実行委員長・峰岸通県連会長の主催者挨拶に続き、来賓を代表して野本守利消費生活課長、松本近史 J A 群馬中央会専務理事、北村洋日生協中央地連事務局員から祝辞をいただきました。次いで団体表彰（7 生協 14 団体）と永年勤続表彰（30 年勤続 18 名・15 年勤続 73 名の役職員）が行われ、峰岸会長から表彰状が贈られました。



野本消費生活課長



生協大会のようす（左と）、団体表彰（中）、30年勤続表彰（右）

第二部では、日本生協連医療部会副運営委員長の日野秀逸先生（東北大学名誉教授・国民医療研究所所長・医学博士）をお招きし、「日本の医療・福祉を考える」と題して講演会を行いました。講演会では、日本の医療政策の現状や、医療生協と国民の医療運動に期待されていること、民主党政権の医療政策分析、日本の医療生協とその運動などを、パワーポイントを使って話していただきました。

参加者からは、「医療の現状が理解できた」「医療生協が世界で冠たるものだと知り嬉しくなった」「医療生協の事がよく分かった」などの感想が寄せられました。



日野秀逸先生の記念講演

《ご来賓の皆様》

群馬県生活文化部消費生活課長	野本 守利 様
J A 群馬中央会専務理事	松本 近史 様
日本生協連中央地連事務局員	北村 洋 様
中央労金群馬県本部本部長	清村 宗一 様
群馬県くらしの会連絡協議会会長	国峯 澁子 様
生活協同組合連合会コープネット事業連合執行役員	永井 伸二郎 様
パルシステム生活協同組合連合会常務執行役員	中村 洋 様
富士重工群馬製作所生活協同組合専務理事	剣持 隆 様

第53回群馬県消費者大会が開催されました

10月27日(火)

県消費生活課次長落合久美子氏が「消費者庁設置と消費者行政の強化」と題して講演



第53回群馬県消費者大会（実行委員長：峰岸通）が10月27日（火）に前橋テルサ「つつじの間」で開催され、18団体から97名が参加しました。

大会では峰岸通実行委員長のあいさつに続き、群馬県生活文化部消費生活課野本守利課長から祝辞をいただきました。第一部は、八田直樹県消団連事務局長から基調報告、群馬県への要請結果、市町村消費者行政調査結果等の報告が行われました。消費生活相談員の大谷君代さんから消費者行政について、県消団連副会長の坂本棟男さんから群馬県レジ袋削減推進協議会の状況について補足発言を受け、議案を確

認しました。続いて若田部健次幹事（群馬中央医療生協）から特別決議「後期高齢者医療制度を廃止し社会保障全般の充実を」が提案され、満場の拍手で確認されました。

第二部の記念講演では、群馬県生活文化部消費生活課次長落合久美子氏から「消費者庁設置と消費者行政の強化」をテーマにご講演をいただきました。地方消費者行政活性化基金を活用した群馬県や市町村の計画の紹介、群馬県に設置された「群馬県消費者行政推進本部」の説明、消費者団体との連携への期待などについて報告をいただき、会場との意見交換を行い理解を深めました。



県民ネットワークが「第5回地域語部の会」を開催しました

11月7日(土)

講演会「フードファディズム～メディアに惑わされない食生活～」

2009年11月7日（土）、ぐんま食の安全・安心県民ネットワーク（峰岸通会長）は群馬県との協働事業として「第5回地域語部の会」を桐生市保健福祉会館で開催しました。今回は、ぐんま食育フェスタin桐生の企画のひとつとして、フェスタ会場で開催し県民78名が参加しました。



「フードファディズム～メディアに惑わされない食生活～」と題して、群馬大学教育学部教授高橋久仁子先生からご講演をいただきました。

食べ物や栄養が、健康や病気に与える影響を過大に信じたり評価することを「フードファディズム（Food Faddism）」と言います。ある食品に含まれるある物質の有益性や有害性を、含まれる量や摂取頻度、摂取量を無視して論じるフードファディズムについて、多くの具体的な事例が紹介されました。また、マスメディアによる“売れる健康情報”に紛れ込むフードファ

ディズム、不安煽動情報が不安乗っ取りビジネスに利用され、高額な健康食品を売りつける悪質商法があつたことを絶たない問題が指摘されました。健康食品の問題性（健康食品による健康被害）、行間を読ませるキャッチコピーに警戒し、読むべきは栄養表示であること等の説明がありました。健康の維持・増進の三要素は「栄養・運動・休養」であり、栄養（食）さえよければ健康は万全と考えること自体がフードファディズムである。メディアに惑わされない食生活をするには、食情報のカラクリを見破る目を養うことが重要であると指摘されました。

講演終了後、参加者からのたくさんの意見や質問に、高橋先生からていねいにお答えいただきました。

県連女性協議会がJAぐんま女性組織協議会と交流会を開催 農産物直売所「ぼんぽこ」の見学、活動と思いを交流しました

11月20日（金）、県連女性協議会はJAぐんま女性組織協議会（齋藤正江会長、以下「JAぐんま女性協」という）との交流会を開催し、邑楽館林農業協同組合（本部：館林市、塩田俊夫組合長、以下「JA邑楽館林」という）をたずねました。



「ぼんぽこ」の全景

両協議会のメンバーら16名は、はじめにJA邑楽館林が昨年11月に開設した農産物直売所「ぼんぽこ」を視察し、店長の小川賢一さんから「ぼんぽこ」の設立準備からオープンまでの取り組みや、オープン後のお話などを伺いました。特に、「地域との共生」をモットーに、消費者と生産者がと

も喜んで利用できる施設をめざしているとのことでした。また、生産者の半数は女性が登録し、生産者協議会の役員16名のうち5名が女性であるなど、女性の活躍が印象的でした。

次に伺ったのはJA邑楽館林の本部です。すでに塩田組合長や女性理事の皆さん、JA邑楽館林女性会連絡協議会の役員の皆さんが大勢待つ会議室で活動交流会を行いました。



交流会の様子

JAぐんま女性協齋藤会長、JA邑楽館林塩田組合長、県連女性協林会長のあいさつのあと、それぞれの活動報告と意見交換を行い交流しました。「女性は意思決定の場に参加するまでが（男性に比べて）大変」、「女性が意思決定の場に参加しにくいのは、男性の意識が変わらないからではないか」、「ルール作りを通して少しずつ変えていくことが必要」など活発に意見が出され、有意義な交流ができました。



JA邑楽館林塩田俊夫組合長から歓迎の挨拶をいただきます

収穫感謝祭2009が開催されました

10月17日(土)・18日(日)

今年もコープぐんまが出展、コープ商品などを元気に販売

収穫感謝祭2009（実行委員会主催）が10月17日（土）・18日（日）の両日、JA群馬ビル駐車場などを会場に開催されました。これは、生産者と消費者との交流を通して農業や農村の果たす役割などを考える機会としようとして毎年開催されているもので、今年は15回目となりました。土曜日は、あいにくのくもり空でしたが、日曜日は晴天の秋晴れで、たくさんの来場者でにぎわい大盛況でした。昨年からコープぐんま（本部：桐生市、中嶋源治理事長）が実行委員会に参加し出展しています。



コープぐんまでは、「JAグループとの協同組合間連携の強化をはかり、出展を通じてJAその他の団体との交流を深め、参加した消費者にコープ商品とコープの取り組みを広く知ってもらう機会」として組合員理事4名と職員4名が参加しました。

コープぐんまは行楽のおともにと産直のりんごやみかん、たねなし柿などの果物、コープ商品を中心としたお菓子、食品、飲料などを販売しました。たねなし柿は、「群馬では柿は買うものではないと思っていましたが、珍しいから買いたい」と、好評でした。

高校生の応援団交流やFM群馬の公開生放送、群馬の野菜大抽選会、食育DVD、地産地消・食と農に関する展示などとおして、JAのみなさんとたくさんの消費者と楽しく交流することができました。（情報提供：コープぐんま組合員活動室）

6 県連合同業態研修会に参加（茨城）

11月26日(木)・27日(金)

群馬県、栃木県、茨城県、長野県、新潟県、埼玉県の各県連が持ち回りで開催している6県連合同業態研修会が11月26日(木)、27日(金)、茨城県で開催されました。

群馬県連からは、県庁生協と県連から3名が参加し、研修を通してそれぞれの取り組みを交流しました。



全体研修では、「稼働率連続日本一！おもてなしの心」と題して、国民宿舎「鶺鴒の岬」総支配人の埴吉七（はなわ・きちしち）氏（写真右）の講演を聞きました。埴氏が支配人として就任した82年、「鶺鴒の岬」の年間宿泊率は40%を割っていたのですが89年には日本一の宿泊率83%に引き上げ、以来20年間日本一を維持、今世紀はほぼ100%をキープし



続けているという驚異の記録の裏にあるものを学ぼうという企画でした。常にお客様目線でその思いを汲みとり、いっしょに働く人と地域の人々を大切にす埴氏の哲学を感じながらも、つかみきれない重みを感じました。

夜には、茨城県庁生協のTABLE FOR TWO（テーブル・フォー・トゥー）運動について、スライドを使った報告がありました。「先進国の私たちが健康な食事を1食食べるとき、開発途上国の子供に学校給食を送ることができる」運動をこう呼び、5月から毎週水曜日に実施し、県庁生協の食堂で提供するTF2ヘルシーランチ1食につき20円が開発途上国の学校給食に寄付されています。20円という金額は開発途上国の学校給食1食分にほぼ相当するそうです。また、常磐大学人間科学部健康栄養学科などの



学生が季節感を取り入れたヘルシーメニューを作り、県の保健福祉部保健予防課と農林水産部園芸流通課の協力で地元の食材を調達し、毎月地産地消の日と食育の日に県庁生協の食堂で提供する企画など、非常に興味深い取り組みが報告されました。

他に、日本で一か所しかないというウミウ捕獲現場の視察（写真左）や、そのあとのウミウの生態についての講演（日立市観光課職員）などたくさんの企画に加え、吉田正記念館見学やそば打ち体験など楽しい企画もあり、参加者にはとても充実した2日間であったと思います。

●●● 県連便り ●●●

県連活動日程

- 12月10日 前橋工科大生協設立総会
広島県連平和活動交流会（東京）
- 16日 食品安全県民会議
- 17日 ④常務理事会
- 18日 レジ袋削減推進協議会
- 21日 市消団連幹事会、県民ネット役員会
- 24日 県消団連自治体訪問
- 28日 御用納め
- 1月4日 年始まわり
- 5日 県連事務局会議
- 12日 ④理事会・新春交歓会
- 13日 ⑦女性協運営委員会
- 14日～15日 全国政策討論集会
- 18日 消費者行政に関わる懇談会
- 19日 ⑤組織部会、③まつり実行委

第3回県連理事会報告

- 日時 2009年11月12日(木) 10時00分～
場所 全労済群馬県本部 大渡ホール
- 議事及び内容
- 報告事項
 - 1、一般経過報告
 - 2、特別報告
 - 3、女性協議会・会員生協報告
 - 協議事項
 - 1、生協大会のまとめと消費者大会の進め方
 - 2、消費者政策の充実強化を進める取組み
 - 3、食品の安全を確保する取組み
 - 4、県連災害対策について
 - 5、地球温暖化防止の取組み
 - 6、役員の選任について
 - 7、その他